



〒244-0002 横浜市戸塚区矢部町125

電話 045-881-0348 FAX 045-392-6043

E-mail: mail@zenryouji.jp http://www.zenryouji.jp

発行責任 善了寺 還る家とともに 5月担当：吉田

☆ 移転先の追加情報と御礼 ☆

先月より、善了寺建て替えにともなう事業所一時移転についてお知らせを始めました。突然のお知らせに皆さま驚かれたことと思います。ご不便をおかけしますことを本当に申し訳なく思います。そんな中で、ご家族やケアマネジャー様より、「場所が変わっても、人が変わらないなら大丈夫よ」との言葉を多く頂きました。ボランティアで通ってくださっている皆さまは、送り迎えの便がない分今までよりもアクセスの面で負担が増えてしまいますが、そんな中でも早速「どんなところか試しに一度行ってみたいよ」と前向きな言葉も頂き本当に嬉しく思います。ボランティアで通ってくださっている皆さまが多いことがこの善了寺デイサービスの大きな特徴です。この10年、お寺に集う人々の多様な関係から生まれた、かけがえない思い出は沢山あります。日々のなんでもないひとときに生まれる笑顔や、涙や、こころの交流は、それ自体がここへ集う大きな意義であり、それはスタッフだけでは到底なしえないものです。場所が移っても引き続き、皆さまにとっての「還る家」であるよう努力いたします。多方面より励ましの言葉を頂きありがとうございました。

下記に移転先について、追加でお知らせがあります。

・詳細な住所：横浜市戸塚区上矢部町2471-48

・アクセス：戸塚駅西口の大踏切ちかくのバスターミナル(住宅公園前)より、「戸塚駅行 領家中前、(ラムーナ)上矢部高校」の循環バスに乗り11分、「諏訪久保」下車、徒歩1分。

もしくは踊場駅から「弥生台駅行き」バスに乗り5分、「領家中学校前」下車、徒歩9分。

・移転時期：今年7月以降（改修工事の関係で延びています）



♪ スタッフのつぶやき ♪

桜散り黄緑の季節が今年も巡ってきました。春は多くの変化をもたらします。厳冬の雨は凍てつきますが春の雨は蘇生させるめぐみの雨となります。しかし私はそれでも冬のほうがよいです。それはそうと、...

変化と言うと義母が退院し同居の運びになりまして、入院する前は、近くのスーパーやお医者さんにも一人で行っていましたが寝たきり状態で帰ってきました。なぜかという、病院で「トイレに行きたい」というと「オムツしてあるからおしっこしても大丈夫ですよ」とで、尿意を感じなくなり、いちばん大きな変化は自分からはあまり話さなくなったこと。ミスチルじゃないけど予定通りのコースを歩いてきたわけです。同居しひと月半、時間はかかりますが動作がスムーズになりデイサービスを週三回利用し、もと通りになりつつありがたいです。弱くなった義母が居るおかげでか、夫も娘も家族が優しくなりました。義母が居てくれる意味はこれなんだなあと思っております。

全然話は違いますが、オリオン座の1等星ベテルギウスは超新星爆発で今は存在していないそうです。私たちは過去のひかりを観ているのだそうです。冬の大三角形が無いなんてピンときませんが。嬉しかったのは、我々銀河系に地球外生物の存在の痕跡があるかもと分かったことです。

さあ、善了寺本堂の建て替えで還る家ともにも2年間のお引越しです。環境問題、人権問題などに実践で取り組んでいる住職ですから、私はどんな本堂どんな還る家が出来上がるのか日脚が長くなったなど気づいた時のような感じで楽しみにしています。

澤野 栄子

♪ 弱さの思想 ♪

先日聞思堂で収録されたラジオ番組「学問のすすめ」では、明学教授の辻信一さんと高橋源一郎さん、お二人による「弱さの思想」についてのお話が聴けました。

そのなかでとても印象深い部分があり、私（吉田）が善了寺デイサービスで過ごしていて日々感じていることと共通していましたので、ここに一部ご紹介します。

——強者が中心の社会が弱者のために作った施設は効率重視で「朝起きたらこれをして、次はこれ」とカリキュラムがきまっている。しかし弱者によりそった者が作った施設はカリキュラムがきまっていない。なにかをする必要はなく「よりそう」だけでいい。それはただ立っていることではない。いとおいしいものと一緒になると、彼らがなにを感じているか知りたくなり、最初は小さくて聞き取れない声に、耳をすませるようになる。それは病院でも、心身障害者の施設でも、子どものホスピスでも全てに共通していた。弱さの声はとても小さいから、ふだん大きな声で話す者には聞こえない。聞く時はじっと耳をすませなければならない。

強さと弱さについてかんがえるとき、「する」と「いる」というふたつの言葉で表現できる。

カリキュラムから始めちゃうのは「する」が基本。弱さというのは「より多く「する」という量的な基準から言うと「欠損」だ。歳をとれば若い時みたいにいけるんなことができなくなっていく。でも、最初にまずなにを「する」かよりも、大事な事は、朝を迎えてまずみんなここに「いる」ということ。基本的にはそれだけでいいんだけど、じゃあ、なんか、する？というかんじ。「いる」ことに対する絶対的な認知がゆるぎなくある。家族もそうで、家族は「よりよくできるひとたちの集団」ではない。オリンピックみたいに予選があるわけではなく、ちよつといろいろ問題はあるけど、まあ生きてるだけでいいか...という、一番底辺にそういう認め合いがあってやっている。コミュニティも本来そうだ。誰だってどこかからヘッドハンティングしてきて存在しているわけ

ではない。伝統的な家族やコミュニティといった、人類の歴史に一番深く根をはっている組織と近代的な組織との決定的な違いはそこだ。ひとりひとりが老いて病んで死にゆく弱い存在だ、そういうのを認めて、ま、いるだけでいいよね。という、この思想がないと、とても不幸せで、息苦しい。——

いかかでしょうか。私もそっと耳をすませて、「いる」を大事に。

編集後記

高校3年生、中学3年生、小学6年生の元気印で、食べざかりの子どもたちの食事、洗濯、掃除や、学校役員に坊守会の役員の日々に追われて、少々お疲れモードで、デイサービスにお邪魔すると、不思議に（介護が必要と認定されているはずの）おじいちゃんおばあちゃんが、私の疲れや悩みをふっ飛ばしてくれます。だから、つつい用事を後回しにして、お茶をのみに行ってしまいます。ジムに通っていらっしやる超元気な年配の方達にも希望を感じますが、1分前の事も忘れちゃう人、トイレの失敗をしちゃう人、一人で歩けなくなっちゃった人からは、攻撃性、競争性、威圧感を感じません。弱音を吐いても許してくれる優しさや柔軟性で迎えてもらえると、元氣と勇氣と再生のパワーを頂けるのです。

ボランティアさん

善了寺に関わってくださっている沢山の方々にデイサービスは日々支えられています。いつもあたたかい気持ちと笑顔を持ちよって寄り添って下さることにあらためて感謝申し上げます。

中嶋芳江 秦野かねよ 安藤信子 竹中秀子 山下トキエ 西岡美都里 寺島美代 朝倉好子 別府与志子 濱崎芳子 市野和歌子 弓削福子 矢口和子 秦野雅子 米村正男 小寺久枝 江田峯子 中島雄子 村井ヒテ子 江尻伸子 鳥巣スエ子 牛島寛子 橋本淑子 長澤チヨ子 福寿貴美恵 犬塚照夫 松村節子 秦野宣子 大金スエ子 梅本忠男 小林ミエ 林ヨシ子 松田良子 森谷ミヨシ 山田ヒロ子 増村隆穴山よしお 乾隆子 内田佐知子 砂川元枝 長岡綾子 吉高友子 敬称略